

# 中小企業診断士の視点

## 第26回 ローカルベンチマークの活用について



中小企業診断士 梁川 成豪  
一社)埼玉県中小企業診断協会

私は中小企業診断士として、企業の事業性評価に取り組むにあたり、ローカルベンチマークをしばしば利用します。「ローカルベンチマーク」とは、経済産業省が企業の経営状態の把握を行うためのツールとして策定したもので、平成28年3月に公表されました。経営者や金融機関、支援機関等の関係者が、企業の状態を把握し、同じ目線で対話を行うための基本的な枠組みであり、事業性評価の「入口」としての活用を目的としています。

具体的には、エクセルフォームのローカルベンチマークツールに「財務情報」として6つの指標（①売上持続性、②収益性、③生産性、④健全性、⑤効率性、⑥安全性）と、「非財務情報」として4つの視点（①経営者への着目、②関係者への着目、③事業への着目、④内部管理体制への着目）、および商流・業務フローに関する情報を入力することにより、企業の経営状態を把握し今後の方向性について検討します。

ローカルベンチマークの大きな特徴は、数値による定量的な評価のみではなく、経営者の意欲や事業環境などの定性的な面を重視している点にあります。「財務情報」により企業の過去から現在までの姿を把握し、「非財務情報」により企業の現在から将来の可能性を評価します。

この指標を企業の関係者が参照・共有することによる期待効果は、企業の現状把握と今後の可能性に向けた対話が深まることにあります。特に企業と金融機関の間での活用は有効です。金融機関は財務数値以外の面での評価ができるため、企業の今後の成長性にしっかりと目を向けることができます。我々中小企業診断士にとっても、企業支援にあたり金融機関を交え同じ視点で対話が可能となるため、非常に有用です。

「平成29年度補正ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金」の加点項目にもなっている経営力向上計画ですが、策定の際、経営分析にローカルベンチマークの財務指標等の活用が推奨されています。関東経済産業局の推奨様式では具体的な数値計画の入力により、ローカルベンチマーク指標による自社の経営状況の把握が可能となっています。計画策定にあたっては、私は関東経済産業局の様式の使用をおすすめしています。

ローカルベンチマークは経済産業省のページから確認が可能です。

([http://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei\\_innovation/sangyokinyu/locaben/](http://www.meti.go.jp/policy/economy/keiei_innovation/sangyokinyu/locaben/))

具体的な活用事例も掲載されているので、ぜひご参照ください。

### 【問い合わせ先】

埼玉県中小企業診断協会

ホームページ：<http://sai-smeca.com/>

電話：048-762-3350

Eメール：[rmcsai@nifty.com](mailto:rmcsai@nifty.com)